

日本語会話モジュールと CEFR の関連づけの試み

井之川睦美

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

はじめに

本稿は、Common European Framework of Reference for Languages (以下 CEFR) の枠組みを用いて『日本語会話モジュール』内にある発話文のレベル分けを試みるものである。

『TUFS 言語モジュール』の会話モジュールは、言語の持つ「機能」に焦点を当てて開発されており、機能を表題とした 40 の会話から構成されている。現在インターネット上に公開されているが、学習のひとつの指標となるレベルが示されていない。一方、CEFR は複数の言語に共通する枠組みとして能力記述を提示しており、異なった言語間でも同一のレベル認識を持つことができることを特徴とする。また、言語活動を単位とした言語能力記述がなされており、記述には機能を視点としたものがある。工藤他(2006)は、CEFR は『TUFS 言語モジュール』が目標とする複数の言語を対象とした枠組みと性質が似ているとし、日本における言語教育への利用可能性を探る調査を実施している。こうした CEFR と『TUFS 言語モジュール』に関する研究を背景として、本稿では『日本語会話モジュール』内の会話文のレベル分けに CEFR の枠組みを援用する。レベル分けを試みることで CEFR と『日本語会話モジュール』の関連性を探り、最終的なレベル分けへの示唆を得ることを目的とする。

1. 『日本語会話モジュール』の概要

会話モジュールでは、概念・機能シラバスが採用されている(結城 2004)。会話モジュール開発にあたり、松本(2002)による教科書分析調査が実施され、その調査をもとに機能リストが作成された。そこから 40 の機能が選定され、選定された機能を持つ会話文を中心にスキットが作成された。スキットは言語構造、発話場面、発話行為の複合物という位置づけである。そこでは自然な会話が追求され、言語構造の複雑さや論理性に優先するとしている。取り上げられる会話は、大学生活に必要な日本語に焦点があてられ、初級レベルの文型・表現を中心として会話場面が構成されている(海野他 2006)。スキットの内容は、大学生活にそって 4 月から始まり 3 月までの話題へと展開されている。

2. レベル判定における CEFR の枠組みと『TUFS 言語モジュール』

CEFR の背景理論は、action-based approach (一般的な意味での行動中心主義) であり、言語使用者、言語学習者を social agents (社会の一員であり、社会的に行動するもの) としてとらえている (Council of Europe 2001)。したがって、言語だけではなく言語活動を含めた行為、課題¹ に対しての能力判定記述がなされる。各種の言語活動形態の記述のうち、Interactive activities (相互行為活動) における口頭でのやり取りとして、「取引」「交渉」「打ち解けた会話」「情報の交換」「目的達成のための共同作業」等のカテゴリーがあげられ、各カテゴリーでどんな課題がどのようになされるかが記述されている。レベルは A1, A2, B1, B2, C1, C2 の 6 段階に分かれ、A1, A2 を基礎段階の言語使用者、B1, B2 を自立した言語使用者、C1, C2 を熟達した言語使用者としている。各段階のレベル記述は言語学習者の熟達度を評価するものであり、初心者段階からの言語発達を記述する「足し算的アプローチ」² がとられている (和田 2004)。

このように、CEFR は複数の言語の指針となるような能力記述であることから、各言語の具体的な表現、語彙等の言語記述がない。そのため、個々の言語における言語使用がどのレベルの言語活動に適合するかを判定することがむずかしい。したがって、本調査では、同じく『TUFS 言語モジュール』で開発された文法モジュールも参照することとした。『日本語文法モジュール』のシラバスは、文型・表現が易から難へと配列されている。また、志波 (2004) は、日本語教育においてはシラバスの組み立てが文型と表現意図を中心に組み立てられており、場面や機能につながりやすいことを指摘している。さらに、日本語教育が syntax より construction に重点をおく理由のひとつとして、金水 (2002) を引用し、命題論理より副助詞、「は」「も」 etc など文脈や場面に依存する成分が発達していることがあげられると説明する。このように、文型・表現が場面や機能につながりやすいこと、また、同じ『TUFS 言語モジュール』内で開発された経緯からも、『日本語文法モジュール』の文型・表現の提示順を参照資料とするのは妥当であろうと判断した。

3. レベル分析

3.1. 分析方法と手順

以下は分析方法と手順である。

- 1) 『日本語会話モジュール』から、各スキットの表題の機能を担う発話文を抽出する。
海野 (2006) による『日本語会話モジュール』の学習項目一覧 (p29) を参考にする。
- 2) CEFR に記載されている A1, A2, B1 の各レベルの能力記述から、言語活動や機能に関連する記述を抜き出す³。
- 3) 1) で抽出された発話文と、2) で抜き出された記述を照らし合わせる⁴。その際、言

¹ CEFR (2001) では、課題 (task) は一定のコンテキストにおいて、解決が必要な問題、果たすべき義務、達成すべき目的があると判断された場合、一定の結果を得るため、個人がその必要性を認めた目的行為と定義される。(P10)

² 和田他 (2004) は、発達段階の記述方式として、足し算的なものと引き算的 (ネイティブレベルの話者を出発点として何が足りないかを記述する) 方式の 2 種類あるとしている。

³ 抜き出した記述は分析結果を示す各レベルの表内に示した。

⁴ 前述、1、にあるように、各機能を実現する会話文は初級レベルと説明されている。6 段階レベルのうち、おそ

語活動が行われる場面を海野（2006）で定義される場、役割、話題⁵の3つの観点から検討する。また、同時に『日本語文法モジュール』（資料1を参照）の句型・表現提示順を参考にする。

以上のように、抽出した発話を CEFR に照らし合わせる際、「場面での言語使用」からの視点に「言語構造」の視点も加えてレベル判定を行うこととした。しかし、一発話文と言語活動における能力記述との関連性を探る過程に、筆者の主観的判断による部分が大きいことを付け加える。

3.2. 分析対象

手順1) で抽出された各スキットの表題機能を担う発話文、64文⁶である。

3.3. 分析結果

分析の結果、各レベルの発話文の数は、A1が16文、A2が31文、B1が17文となった。詳しくは資料2を参照されたい。

4. 考察

4.1. レベル、機能、言語構造の関連

CEFR の A1, A2, B1 に分類された発話文の機能と、その特徴を以下にあげる。同じ機能下にまとめられる概念はカッコ内に示した。

レベル A1： 挨拶する、さよならを言う、感謝する、注意を引く、自己紹介をする
人を紹介する、ものをあげる、程度をたずねる

日常的によく使われる定型表現⁷がほとんどである。会話を開始したり終了したりする機能を持つ表現がある。CEFR に記述されている言語活動、「個人情報についての質問をする」等はなかったが、会話モジュールの話者同士が既に友人関係にあるという設定のためであると思われる。

レベル A2： たずねる（金額、時間、数字、場所、能力、特徴、状況、経験）
述べる（意見、順序、好きなもの）、例をあげる、比べる、
謝る、指示する、しなければならないと言う、助言する、要求する
妥協する、条件をつける

らく A1,A2,B1 レベルに相当するとの判断のもと、また、Little & Simpson（2004）による CEFR を参考にした ESL カリキュラム開発報告でも A1,A2,B1 のレベルに収まっていることから3レベルを主に参照した。

⁵ 特定の機能を達成させるために選択される言語構造は、場、役割、話題によって決定されるとする（海野 2006）。

⁶ 「順序を述べる」では、3文を一つとした。

⁷ CEFR では、「いくつかの単語からなり、挨拶など言語の機能面だけが表れた表現」と説明されている（p118）。

情報を求めたり与えたりする機能を持つ発話文が多い。その中には、金額、時間、数字、場所という事実をたずねる発話文と、能力、特徴、状況、経験をたずねる発話文がある。後者の内容は、回答に自身の考えや判断が必要となり、前者に比べ同じ A2 でもレベルが高い会話に展開する可能性がある。

レベル B1： たずねる（手段）

述べる（予定、希望、好きな行動、理由）

提案する、依頼する、許可を求める、禁止する、招待する

しないでくれと言う、しなくともよいと言う、条件をつける

「たずねる」という機能はレベル A2 に多いが、ここでの発話文には敬語が含まれている。相手へ働きかける「依頼する」「許可を求める」等の機能を持つ発話文にも敬語の使用がある。「お～する」「～いただく」等のように敬語を含む文型は複雑になるものがあり、また、複数の表現があるため、形式と意味の対応を理解して適切に用いることは簡単ではない。よって、敬語を含む発話文は、その言語構造と言語使用の両面においてレベルが高いと判断される。

4.2. レベル判定が困難であった発話文と気づいた点

レベル判定が困難であった発話文とその理由、気づいた点を、抜粋した発話文と共に以下に記す。表内は左欄から順に、機能、発話文、文型・表現（言語構造）である。

金額をたずねる	いくらでしょうか。	いくらでしょうか
---------	-----------	----------

CEFR のレベル A1 には「価格を扱う」という記述がある。単語レベルでの発話で商品を指し示しながら、店員の示す値段を理解し目的を達成するという言語使用も考えられる。一方、レベル A2 には「価格をたずねる」という記述がある。「たずねる」というのは「扱う」よりレベルの高い言語使用を意味すると解釈した。また、言語構造としては、学習者が最初に学習するであろう「いくらですか。」は Lesson 10 で紹介されるが、「いくらでしょうか」は「～でしょう」が推測のモダリティ表現として学習されるため、文法モジュールの Lesson 37 と初級後半に位置づけられている。こうした理由からレベル A2 としたが、「～でしょうか」は、丁寧さを表す表現として使用頻度が高いと思われる。したがって、産出レベルではなく受容レベルとして、A1 にすることも可能であろう。

謝る	遅れてすみません。	～てすみません
----	-----------	---------

謝罪の意図を持つ「すみません」は基本的な言い回しでありレベル A1 とされるが、ここでは、謝罪と共に謝罪の理由を示している。「簡単な言葉でどのように感じているかを表現する」という記述が A2 にある。また、「て形」の使用は言語構造の難易度をあげており、「て形」の習得が十分でない学習者にとっては難しい。代替的な表現、「遅れました。すみ

ません。」でも表現できる。さらに場面を推測すると、謝罪をしなければならない話者の心情的な難しさも加わると考えられる。よって、レベル A2 とした。

時間について たずねる	何時から開いていますか。	何時からVしていますか
時間について たずねる	自習室は何時まで使えますか。	～は何時までV（可能形）か
数字について たずねる	本は一度に何冊まで借りられますか。	Nは一度に何冊まで V（可能形）ますか
数字について たずねる	どれくらい借りられますか。	どれくらいV（可能形）ますか

4 例とも職員とのやりとりであり、事務的な場面で「情報をたずねる」機能を持つ発話文である。「時間」「数字」という概念を担う発話部分はそれぞれ「何時から」「何時まで」「何冊まで」「どれくらい」という語彙である。数、時間を扱う言語行為はレベル A1 に相当し、文法モジュールでも Lesson 9 と早い段階で学習する。しかし、ここでは各発話文の「Vしていますか」「V（可能形）か」部分が初級後半（Lesson 24, 36）に学習する項目であるため、レベル A2 に相当すると判断した。

能力について たずねる	英語は話せますか。	NはV（可能形）ますか
----------------	-----------	-------------

ここでは、教師が学生に能力をたずねているが、個人の能力に関することは話者の関係、役割によってたずねることへの難しさが異なるであろう。教師と学生といった役割がはっきりしている場合は問題ないであろうが、話者間の親疎、年齢、話題等、考慮される要素が多い。また、ここでの会話は、全体として依頼をする会話となっている。会話全体の流れも個々の発話文の機能をうまく働かせるためには重要である。この発話文は、教師の発話、「アメリカに留学していましたね。」の後に位置され唐突に切り出してはいない。こうした会話のディスコースを理解し、さらに状況を踏まえながら言語を使えるレベルは一発話レベルより高くなるだろう。一発話文のレベルは A2 であろうが、目的を達成するための会話のレベルは B1 になるのではないかと思う。

要求する	ホテルのパンフレットを送ってほしいんですが。	Vしてほしいんですが
------	------------------------	------------

「～んです」「～んですが」の表現は、文脈の中で適切に使うのが難しい。また、これらの表現を使わなくても、言語活動の目的は達せられる場合が多いことから習得には時間がかかり、レベル B1 以上ではないかと思われる。しかし、パンフレットの要求、ホテルの予約といった事務的な会話の場面では、定型表現として学習できると考え A2 とした。

提案する	外国で教えるというのはどうですか。	～というのはどうですか
------	-------------------	-------------

提案する機能を持つ「～はどうですか」は A1 である。例えば「あしたはどうですか」などむずかしくはない。しかし、上記の「～というのはどうですか」は「～という」「の」が挿入され構造的に複雑になっている⁸。同時に、「外国で教える」という一文の挿入から「あしたというのはどうですか」といった一語単位の挿入も可能になり、文型の応用範囲が広がる。また、「～はどうですか」より主張の度合いが弱いと感じられる。相手への働きかけの強さを調節するために異なる表現を使い分けることはむずかしく、B1 以上の言語能力が必要であろうと判断した。

意見を述べる	なかなかよく書けていると思いました。	～と思いました
意見を述べる	そうですね、もう少し自分の意見を書いたほうが良いと思います。	～たほうが良いと思います

上記 2 例は、教師の発話文であり、学生のレポートに対する評価と助言を与えている場面である。表題の機能として「意見を述べる」とあり、言語構造も一般的に意見を述べる場面に用いられ、レベルは A2 と判断される。しかし、はっきりと意見を述べることを前提とする場合は、授業や会議など限られ、その他の状況では、話者関係、話題等に大きく左右されると思われる。知人との会話であれば、「～と思いますけど」「～たほうが良いと思いますが」など文末に助詞を挿入し、直接的な文末表現を避けることもある。このように、言語構造のレベルは高くないが、だれと話すかという話者関係によって注意を要する表現となる。レベル A2 と判定したが、使用においては B1 レベル以上の言語能力が必要とも考えられる。

条件をつける	もし、雨が降ったら、大会は中止ですか。	もし N が V たら、N は～です
条件をつける	小雨程度なら、中止にはならないと思いますが。	N なら、～と思いますが
条件をつける	大雨の場合は、授業がありますか。	N の場合は N がありますか
条件をつける	明日雨だったら友達と映画を見に行く約束をしているんです。	N だったら～V (約束をしているんです)

上記 4 例のうち上 3 例は、ある条件での予定をたずねたり述べたりする機能として、A2 とした。それに対して、最後の例は、文脈中の「どうして」という問いかけに対する発話であり理由を述べている。B1 の能力記述、「計画の理由、説明を述べる」に相当すると考えられるため、B1 と判定した。また、言語構造をみると、「条件をつける」機能を持つ表

⁸ 「～という」は、そこで述べられたことを事実として指し示す役割をする。「の」は埋め込み表現に使われ、文相当の内容を名詞化する働きがある(砂川他 1998)。同様の機能を持つ「こと」との使い分けは学習のポイントとなる。

現は、「明日雨だったら」の部分であり、条件が影響を及ぼす範囲は「友達と映画を見に行く」という部分である。結城（2004）による機能40のリストでは、「ある条件での行動を言う」とある。条件を表している従属部分と主節との関連が複雑であることから他の3例とは異なり、B1とした。

しないでくれ と言う	すみません、顔写真はちょっと載せないでいただけませんか。	Vないでいただけませんか
---------------	------------------------------	--------------

上記の発話は丁寧をお願いする場面である。「学生と教師」間の会話であり、「いただく」という謙譲語の否定形を用いてお願いをしている。他にも類似の表現が考えられる。「載せないでくれますか。」「載せないでもらえますか。」「載せないでほしいんですけど。」などでも表現できる。しかし、ここでは教師へのお願いであることと、相手の行為の禁止を求める内容であることから、意図する目的をうまく遂行させるために丁寧な表現を選んだのであろう。このように、相手との関係を考慮し適切な言語構造を選択したいという意識が話者に働く。学習が進むに従い、語用的適切さへの要求と言語構造のむずかしさの両方が増してくるといえるだろう。B1の能力記述にある「賛成、反対を丁寧に表現する」に相当するのではないかと判断したが、心的状況を考えると、B2にある「気持ちのありようを伝え、個人的重要性を強調する。」に相当するとも考えられる。

以上のようにレベル判定に迷うところがあった。その要因には、一発話内の言語構造に起因するものと場面における言語使用に関連するものがある。発話することには問題がないが、文脈にそった適切な使用がなされるかどうかという点をどう考慮したらよいかレベル判定をむずかしくした。また、今回レベル判定時に参照した『TUFSS 文法モジュール』は教材であり、各表現・文型を学習するレベルを示しているが、CEFRに提示されているレベルは熟達度を意味する。したがって、一文レベルの文型・表現を知識としてまず学習するレベルと、それらが場面と状況の中で適切に使用できる熟達度のレベル間に差がある。このことが、どちら寄りのレベルにすればよいか判定をむずかしくした要因と考える。

4.3. 言語活動のレベルを左右すると考えられる要因

分析課程に観察された言語活動のレベルに影響を与えると考えられる要因を以下に整理する。

1) 言語構造

- ・文（発話）の構造（複文構造、敬語、丁寧表現などの待遇表現）
- ・規則性の複雑さ（て形、数詞等）

2) 言語使用

- ・語彙、表現の選択の複雑さ（類似、代替表現の有無）
- ・ディスコース（共通認識のある会話の流れの有無）

3) 場面

- ・話者同士の関係： 上下関係、親疎、関係の維持や変化への必要性の有無

- 場： 役割を生み出す，生み出さない
媒体（電話等）
- 話題
- 頻度：場，話題の出現頻度（挨拶等の定型表現，語彙）

4.4. CEFR との関連性

『日本語会話モジュール』内の一発話文が，CEFR でのどの記述に関連があるかを主観的に判断しレベル判定を試みたが，結果にどれだけの整合性があるかは疑問である。したがって，他のレベル判定基準や複数の調査者による試みを重ねることが必要となろう。また，レベル分析を試みる過程で，一発話文のレベル判定に 4.3. で示したような複数の要因が絡んでいるようであるということが認識された。CEFR においても，一発話文の視点ではなくディスコースとして会話をとらえ，言語の機能的な使用をマイクロ機能とマクロ機能⁹に分けて説明している（p140）。そして，会話能力をマイクロ機能を知ることだけでなく，対話の過程でのディスコースの構築やスキーマの利用を含んだものとしてとらえている。このように，CEFR の能力記述を参照してレベルを考える場合には，一発話文を越えた機能やディスコースという観点から会話を分析する必要がある。

CEFR と『TUFPS 言語モジュール』に共通する観点として機能があげられるが，4.1. で述べたように，レベルによって特徴的な機能分類が見られた。しかし，これは場，役割，話題が変われば異なってくる。今回，B1 レベルに偏った，人に働きかける機能であるが，友人同士の依頼する表現であれば，A2 レベルの短い「て形」表現，「貸して。」等で済む。このように同一の機能を持つ表現は複数あり，その言語構造のレベルは異なる。その中でも敬語を含む表現は，言語構造と意味との対応が複雑であり，話者関係によって使い分けの語用もむずかしい。こうした日本語の特徴といえる敬語の使用と言語活動との関連が，どのように CEFR の能力記述に適合するのかも今後の分析課題のひとつである。

おわりに

今回の分析のように，言語活動を単位として分析していくことは，日本在住の日本語学習者の言語学習のニーズを知る上で必要な視点である。CEFR の枠組みと日本語会話の関連性をさらに分析し，日本語学習と指導における CEFR の位置づけへの探究が望まれる。

⁹ ミクロ機能は言語形態が果たす特定の機能，マクロ機能はいくつかの文の連続で構成されているディスコースやテキストの機能と説明されている。

【参考文献】

- 阿部一哉 2004: 「TUFSS D モジュール開発「試作版」－サイトの構築と他モジュールとの関連性－」, 『言語情報学研究報告』 No.1, 95-101, 東京外国語大学大学院.
- 海野多枝・菊池富美子・野村愛 2006: 「『日本語会話モジュール学習者ガイド』開発の基本方針と理論的背景」, 『言語情報学研究報告』 No.10, 13-33, 東京外国語大学大学院.
- 金水敏 2002: 「日本語の構文論」, 飛田良文, 佐藤武義 (編), 『文法』, 現代日本語講座, 第5巻, 明治書院.
- 工藤洋路・小林善知・根岸雅史 2006: 「ヨーロッパにおける CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を利用した言語政策」『言語情報学研究報告』 No.10, 155-162, 東京外国語大学大学院.
- 志波彩子 2004: 「基本文法プロファイル研究 日本語－表現意図中心のストラテジー」『言語情報学研究報告』 No.1, 139-148, 東京外国語大学大学院.
- 砂川有里子他 1998: 『教師と学習者のための日本語文型辞典』, くろしお出版.
- 松本剛次 2004: 「初級日本語教科書のシラバス分析と TUFSS-D モジュールの設定試案およびその妥当性に関する考察」, 『言語情報学研究報告』 No.1, 83-93, 東京外国語大学大学院.
- 結城健太郎 2004: 「D モジュール開発のための場面シラバスと機能シラバスに関する基礎調査」, 『言語情報学研究報告』 No.1, 75-81, 東京外国語大学大学院.
- 2004: 「D モジュールにおける機能 40 とその分類枠組み」, 『言語情報学研究報告』 No.1, 103-113, 東京外国語大学大学院.
- 和田朋子 2004: 「TUFSS 言語能力記述モデル開発のための試み: Common European Framework (of Reference for Language) の考察」, 『言語情報学研究報告』 No.5, 89-102, 東京外国語大学大学院.
- Council of Europe (吉島茂訳編), 2001: 『外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社, (原題 *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. 2001).
- Little, D. and B. L. Simpson, 2004: “Using the CEF to Develop an ESL Curriculum for Newcomer Pupils in Irish Primary Schools.” In K. Morrow (ed.) , *Insights from the Common European Framework*, pp.91•108. Oxford: Oxford University Press.

資料 1. 『日本語文法モジュール』から「48回コース, 週二回の学習コース」シラバス

- Lesson01: N です/N ではありません, N は N です
- Lesson02: N ですか, N でした/N ではありませんでした
- Lesson03: N があります/います, N に N があります/います
- Lesson04: N の上/下/中/前/後

- Lesson05 : N の N
- Lesson06 : A い N, NA な N
- Lesson07 : これ／それ／あれ, ここ／そこ／あそこ
- Lesson08 : この N／その N／あの N, どれ／どこ／どの N
- Lesson09 : 数詞 (1), 数詞 (2)
- Lesson10 : 助数詞
- Lesson11 : ～時, ○○分・半
- Lesson12 : 昨日・今日など, 毎日・毎週など, 月・日付・曜日
- Lesson13 : V ます／V ません, V ますか
- Lesson14 : V ました／V ませんでした
- Lesson15 : N へ V ます, N を V ます
- Lesson16 : N に N を V ます, 時＋V ます
- Lesson17 : A いです／A ありません／A くないです, A いですか
- Lesson18 : A かったです／A ありませんでした／A なかったです, とても・あまり
- Lesson19 : イ形容詞とナ形容詞, NA です／NA ではありません
- Lesson20 : N1 は N2 が A い／NA です
- Lesson21 : 普通形の体系, 動詞の 3 種類
- Lesson22 : 形容詞の普通形, 名詞述語の普通形, 普通形と丁寧形
- Lesson23 : V て (て形), V ています (進行)／V いません
- Lesson24 : V ています (状態), V ています
- Lesson25 : N と N, N や N
- Lesson26 : A くて A・NA で NA・N で N, V たり・V たりします, V て V ます
- Lesson27 : 助詞とは, 格助詞, 接続助詞
- Lesson28 : 副助詞, 終助詞
- Lesson29 : N をください／N をお願いします, N を (数) ください／お願いします, ほか
- Lesson30 : V てもいいです, V てはいけません／V てはだめです, ほか
- Lesson31 : V ませんか, V ましょう, 誘いの受け方・断り方
- Lesson32 : 意志形, V ようと思います／V ようと思っています
- Lesson33 : V たいです／V たくありません, V たかったです／V たくありませんでした, ほか
- Lesson34 : N がすきです／N がすきではありません／N がきらいです, ほか
- Lesson35 : V ことができます／できません, N ことができます／できません
- Lesson36 : 可能形
- Lesson37 : ～でしょう
- Lesson38 : ～かもしれません・～にちがいません, ～と思います
- Lesson39 : 名詞の修飾の復習, V＋N

- Lesson40 : V こと・V の, ～とき
- Lesson41 : 理由, 逆接
- Lesson42 : 条件, 譲歩
- Lesson43 : やりもらい
- Lesson44 : V てあげます
- Lesson45 : V ていきます／V てきます
- Lesson46 : V ておきます／V てみます
- Lesson47 : スタイルとは, 普通体
- Lesson48 : 普通体, 丁寧体

資料 2

レベル A1		
CEFR のレベル A1 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋 〔言語行為の目的, 機能, 話題, 場所, 語彙等に関連する事項〕		
基本的な挨拶をする / いとまごいの表現を使う / 元気かどうか聞く / 自分や他人を紹介する / どこに住んでいるか, だれと知り合いか, 持ち物などの個人情報について質問したり答えたりする / 直接必要のある分野や身近な話題に関して簡単な意見を言う / 数, 量, 価格, 時間を扱う / 特定の具体的な状況に関して基本的な語彙や言い回しのレパートリーを持つ		
機能	発話文	文型・表現 (言語構造)
挨拶する	おはようございます。	定型表現
挨拶する	おはよう。	定型表現
感謝する	ありがとうございます。	定型表現
感謝する	長い間ありがとうございました。	定型表現
注意を引く	あのう, すみません。	定型表現
注意を引く	すみません。	定型表現
注意を引く	あのう, たびたびすみません。	定型表現
自己紹介する	初めまして。	定型表現
自己紹介する	田村と申します。	N と申します
自己紹介する	よろしく願います。	定型表現
自己紹介する	こちらこそ, よろしく。	定型表現
ものをあげる	つまらないものですけど, どうぞ。	定型表現
さよならを言う	では失礼します。	定型表現
さよならを言う	さようなら。	定型表現
程度をたずねる	お金はどのぐらいかかりましたか。	N はどのぐらいかかりましたか
人を紹介する	こちらが私の母です。	こちらが N です

レベル A2

CEFR のレベル A2 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋
〔言語行為の目的, 機能, 話題, 場所, 語彙等に関連する事項〕

指示を要求する・与える / 価格をたずねる / 買い物する / 食事の注文をする / 招待する / 申し出をする, 受ける / 機嫌, 調子を聞く / 事物や所持品について短い意見を言ったり, 比較したりする / 社交的な短いやり取りを交わす / 工作中や自由時間にすることをたずねる / 何をすべきか, どこに行くかを話して会う約束をする / 店, 郵便局, 銀行で簡単な取引をする / 旅行や公共の移動手段, バス・鉄道・タクシーなどについての簡単な情報を得る / 簡単な言葉でどのように感じているかを表現する / 毎日の周りの事柄について幅広い説明をする / 過去の行動や個人的な体験を話す / 好きなもの嫌いなものを説明する / 友人との議論で他の人の意見に賛成や反対をする

機能	発話文	文型・表現 (言語構造)
金額をたずねる	いくらでしょうか。	いくらでしょうか
時間について たずねる	何時から開いていますか。	何時からVていますか
時間について たずねる	自習室は何時まで使えますか。	～は何時までV (可能形) か
数字について たずねる	本は一度に何冊まで借りられますか。	Nは一度に何 (数詞) まで V (可能形) ますか
数字について たずねる	どれくらい借りられますか。	どれくらいV (可能形) ますか
能力について たずねる	英語は話せますか。	NはV (可能形) ますか
場所について たずねる	会計課はどこでしょうか。	Nはどこでしょうか
場所について たずねる	3階へはどう行けばいいですか。	Nへはどう行けばいいですか
特徴について たずねる	小沢先生の「国際法」はどうですか。	Nはどうですか
状況について たずねる	最近学校でお会いしませんが, どうかしましたか。	どうかしましたか
状況について たずねる	論文のほうはどうですか。	～のほうはどうですか
経験をたずねる	英語専攻の小林先生の授業を取ったことがありますか。	Vたことがありますか

意見を述べる	なかなかよく書けていると思いました。	～と思いました
意見を述べる	そうですね、もう少し自分の意見を書いたほうが良いと思います。	～たほうが良いと思います
順序について述べる	じゃあ、まず、このボタンを押してください。次に、倍率を選んで。最後にこのボタンで用紙を選んで、スタートボタンを押します。	まず～。次に～。最後に～。
好きなものについて述べる	「赤ひげ」とか「夢」が大好きです。	NとかNが大好きです
比べる	来週の飲み会、新宿と、吉祥寺と、池袋の中で、どこが一番いいでしょうか。	NとNとNの中で、どこが一番いいでしょうか
比べる	新宿と吉祥寺と、どちらがいいでしょうか。	NとNと、どちらがいいでしょうか
例をあげる	いろいろな国の音楽を演奏したり、お芝居やダンスをやったり、料理店を出したりします。	～たり、～たり～たりします
例をあげる	タイや韓国やイタリアやいろいろな国の食べ物があります。	NやNやNがあります
謝る	遅れてすみません。	Vてすみません
指示する	図書館のとなりに自転車置き場がありますから、そこにとめてください。	Vてください
しなければならぬと言う	そのシンポジウムは必ず出なければいけませんか。	Vなければいけませんか
しなければならぬと言う	レポートは来週中に提出しなければなりませんか。	Vなければなりませんか
助言する	それなら、早く病院に行ったほうが良いですよ。	Vたほうが良いですよ
助言する	でも、無理は絶対しないほうが良いです。	Vないほうが良いです
要求する	それから、ホテルのパンフレットを送ってほしいんですが。	Vてほしいんですが
妥協する	じゃあ、きつねうどんが良いです。	じゃあ、Nが良いです
条件をつける	もし、雨が降ったら、大会は中止ですか。	もしNがVたら、Nは～です

条件をつける	小雨程度なら、中止にはならないと思いますが。	Nなら、～と思いますが
条件をつける	大雨の場合は、授業がありますか。	Nの場合はNがありますか

レベル B1		
CEFR のレベル B1 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項〕		
<p>経験、できごと、夢、希望、野心を説明する / 意見や計画の理由、説明を短く述べる 日常生活での問題に柔軟に対応する / 驚き、幸せ、悲しみ、興味、無関心などの感情を表現する / 会話や議論を続ける / 友人とのくだけた議論で個人的な見方や意見を示したり要求したりする / 他の人の見解に簡単なコメントを述べる / 返品する / 苦情を言う / 詳細な指示を与えながらやり方を説明する / 信念、意見、賛成、反対を丁寧に表現する / 日常生活範囲内の殆んどの話題の述べたいことを述べられる語彙を持つ</p>		
機能	発話文	文型・表現（言語構造）
手段をたずねる	期末レポートはメールでお送りしてもいいですか。	Nで おVしてもいいですか
予定を述べる	友達とヨーロッパを旅行しようと思っています。	Vよう（意志形）と思っています
希望を述べる	海外で働きたいと思っています。	Vたいと思っています
好きな行動について述べる	ええ、食べるのが好きなので。	Vのが好きなので
理由を述べる	じつは、就職の最終面接があるんです。	じつは～Vんです
理由を述べる	会社が遠くにあるので、無理だと思います。	～ので～だと思います
提案する	外国で教えるというのはどうですか。	～というのはどうですか
依頼する	それで、先生に推薦書を書いていただきたいのですが、よろしいでしょうか。	Vていただきたいのですが、よろしいでしょうか
依頼する	来週の金曜日までにお願ひできませんでしょうか。	Nまでにお願ひできませんでしょうか

許可を求める	次の講読の授業でお借りしてもいいですか。	おVしてもいいですか
許可を求める	返すのは、お昼休みでもいいですか。	Vのは、～でもいいですか
許可を求める	あとう、4限目の英作でもお借りしたいんですが。	～でもおVしたいんですが
禁止する	そこに空き缶を捨ててはいけませんよ。	～Vてはいけません
しないでくれ と言う	すみません、顔写真はちょっと載せないで いただけないでしょうか。	Vないでいただけないで しょうか
しなくともよ いと言う	出なくてもいいですよ。	Vなくともいいですよ
招待する	土曜日にステージがあるんですが、よかつ たら先輩も見にいらっしゃいませんか。	よかつたら、ぜひVにい らっしゃいませんか
条件をつける	明日雨だったら友達と映画を見に行く約 束をしています。	NだったらV(約束をして いるんです)